

令和元年度（2019年度） 学校法人ゴスペル学園ゴスペル幼稚園 学校評価

〒901-0361 沖縄県糸満市糸満 1693-2

TEL 098-994-2145 FAX 098-994-2566

理事長 山内友子

作成日 2020年3月1日

2013年3月に宗教法人から学校法人に移行して7年。2019年4月からは子ども子育て新制度の私立幼稚園に移行しました。地域の幼児教育施設として、また本園の一層の教育の質向上を目的として、このように教職員による自己評価を実施するに至りました。本学校評価を踏まえ、本園の更なる教育活動と教育環境整備の充実、そして教職員の資質向上に努めます。

《教育目標》

『子どもたちひとりひとりが幼児期を精一杯生きることが出来る環境を』

「聞くこと」・「考えること」・「伝えること」が幼児教育の中で特に大切な事であると捉え、以下の保育方針をもって保育に携わっていきたいと考えています。

《保育方針》

『良心を持って判断し、豊かな感受性を備える』

園児たちが体験を通して知識と教養を高め、豊かな心を培い健やかに自律の精神を養い、それぞれの個性を大切に捉える教育をします。

① キリスト教保育

神の愛を感じ、人を愛することを目標とした保育

キリスト教保育とは、神の前での良心教育をその生命線としており、このことを踏まえて「本当に大切なことは何か」を園児と共に考えていきます。園児一人ひとりに寄り添い、園児一人ひとりが神と人ともに愛されている存在であることを実感出来る幼稚園を目指します。

② 自由保育

自由で温かい家庭的な環境での保育

それぞれの個性を尊重し、伸び伸びと自己表現が出来るよう、日々の様々な活動を通して園児達の発達を支えます。集団生活の中でのルールを学びながら、大切な幼児期に大好きなお友達や先生達と沢山遊び込むことに重点を置いています。

③ 知識を経験として学ぶ保育

伝えること・考えること・善し悪しの判断が出来る

他者と関わることにより、他者を理解し、つながりを大切にする。自然に触れ、知る
ことによって園児の創造力と感受性が高まることを目指します。

1. 2019年度主要目標

- ① 全職員、本園の教育目標・保育方針の理解、実践、その目標の達成に努める。
- ② 教職員の質の向上を目指し、幼児教育に関する県内外の研修・講演会等に積極的に参加し、日々の園児との関わりや指導に役立てる。
- ③ 園児一人ひとりに対し、全教職員（クラス担任から事務員まで）が個人個人の成長と子どもらしい育ちが確保されるよう、必要な情報の共有をこれまで以上に深め、各園児に最適な環境を提供できるようにし、当該園児の日々の課題に共に向き合う。
- ④ 食育の一環として、園庭や屋上で野菜や果物の栽培を行う。自身で育てた野菜や果物をみんなで調理、また食する過程と成長の喜びを感じ取る。
- ⑤ 安全対策として原則毎月1回、防犯・火災・地震等の訓練を実施する。年に2回は消防署と連携（訓練の事前通告を含む）して、緊急時を強く意識した訓練を行う。

2. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目① 園の基本方針・保育の計画性

（達成） ゴスペル幼稚園全教職員が園の方針・各クラスやグループの保育内容・教育目標を把握できている。

（取組状況） 毎日行っている教職員による各クラス・グループの保育内容等の報告と確認、そして園児の活動や動きに対する意見交換を通し、日々のクラス運営に役立てている。今後もクラス補助との連携強化をさらに深めていきたい。2019年度は、毎朝（7時55分）と通常保育終了後の15時前後から、毎日欠かさず祈祷と職員間ミーティングを参加できる教職員全員で行った。毎日の日程等の確認に加え、クラス・グループ同士の連携など、教職員一人ひとりがその日の流れを事前に把握し、また終了後に反省・評価する機会があったことは有益であった。その日その日で目標があり、その振り返りを今後も大切にしていきたい。

評価項目② 教師としての資質や能力・良識・適性

（達成） 全教諭が沖縄県私立幼稚園連合会（県内・県外）やキリスト教保育連盟（県内・県外）主催の研修会・講習会・公開保育に積極的に参加した。

（取組状況） 研修の事前周知は全教諭に伝えられ、園からも必要な研修にはでき

る限り参加するよう促した。研修に参加したには教諭には、研修報告書（文章による概要説明と個人の振り返り）を参加した研修から2週間以内に園に提出させた。研修内容の報告を通して、参加出来なかった教諭にもその研修内容を理解させ、幼稚園の教師としての資質向上に努めている。

2019年度から、子ども子育て新制度に移行し、正式にキャリアアップ研修にも交代で参加した。安全対策、食育、幼少連携、特別支援など、それぞれ専門性のある分野の研修に参加することができた。2019年度同様、2020年度もシフト等を出来る限り調整し、キャリアアップ研修をはじめ教職員が教育の質向上のために各研修に参加できるよう学園内でもより積極的に推進していく。

<2019年度参加研修一覧>

※下記は沖縄県私立幼稚園連合会、キリスト教保育連盟、キャリアアップ研修のみ

- 沖縄県私立幼稚園連合会
 - ◆ 沖縄県私立幼稚園教師研修大会（宿泊研修、2日間）（2019年6月）
 - ◆ 全九州私立幼稚園教師研修熊本大会（宿泊研修、3日間）（2019年8月）
 - ◆ ESEQ公開保育（2019年度は愛星幼稚園）（2019年11月）
 - ◆ 主任教諭等研修会（2020年1月）
- キリスト教保育連盟（沖縄部会）
 - ◆ 春の研修（2019年5月）/ 賛美研修
 - ◆ 夏の研修（2019年8月）/ キリスト教保育と各幼稚園の取り組み
 - ◆ 秋の研修（2019年11月）/ キリスト教保育連盟本部より講師来沖
 - ◆ 園長・主任会（2020年1月）
- キャリアアップ研修（参加した研修）
 - ◆ 沖縄県指定保育士等キャリアアップ研修（食育・アレルギー対応）
 - ◆ 沖縄県指定保育士等キャリアアップ研修（障がい児保育）
 - ◆ 沖縄県委託キャリアアップ研修（保護者支援・子育て支援）
 - ◆ 沖縄県委託キャリアアップ研修（障がい児保育）
 - ◆ 沖縄県委託キャリアアップ研修（マネジメント）

評価項目③ 保育の在り方、幼児への対応

（達成） 全園児の登園から降園までの様子を観察し、園児一人ひとりに合った声掛けや接し方を心掛けている。

（取組状況）単に同年齢の園児の発達や成長を比べるのではなく、日常生活の中で園児一人ひとりの発達や成長過程を把握し、全教職員間でその発達段階とその時々の課題を共有することを意識している。必要に応じて、教職員ミーティングで個別の園児について繊細なアプローチが出来るよう心掛けた。特に、主任、担

任との連携を強化して、園児の細かな身体的動きや情緒的な表現にも留意するようになっている。上記に加え、2019年度はクラス補助の教員も一緒に課題や目標を共有し、主任・担任・補助の連携をとりつつ園児一人ひとりに対してより適切な関りが持てることを強く意識した。2020年度もこうした必要な教員間コミュニケーションと日々の課題を意識して教育活動に従事していく。

評価項目④ 自然や地域社会とのかかわり

(達成) 食育の取り組みにおいては、園内施設において教師の管理・指導の下、園児達が自ら工夫して野菜や果物の栽培を行うことが年間を通して達成できた。園児達が近くにある社会福祉法人の老人ホームや県立高等学校などとの交流(敬老会、ハロウィンパーティ、植樹祭等)を通しての地域との関りも継続して実施できている。

(取組状況) 自身で植えた野菜や果物の成長過程を園児達は探求心を持って観察し、毎朝の水やりや観察にも積極的に参加した。教師達も、植物や食べ物の「生長」について、園児に対する言葉かけや子ども達自身に考えさせることを意識した。日誌や毎日のミーティングでも、食育の取り組みに参加した園児達の反応や感受性を教職員間で改めて共有することを心掛け、今後の食育活動に繋げていくことが確認された。

沖縄の伝統文化に関する行事は老人ホームの方々と交流を継続している。月に何度か老人ホームの方々が幼稚園のお花に水をやりに来園されることもあり、園児たちにとっても地域の高齢者との交わりがより身近なものになっている。

ハロウィン等の海外由来の行事は近くの県立高校の英語クラスへの参加を通して園児達の好奇心と探求心を深めることを意識している。高校生にとっても、幼稚園児が仮想をして高校を訪れることは刺激になるようで、海外由来のハロウィンの意味や歴史を改めて学ぶ機会となっている様子である。

評価項目⑤ 幼稚園における安全対策

(達成) 安全対策として毎月1回、防犯・火災・地震等の訓練を実施できた。訓練の前後に、教師から園児向けの注意点や振り返りのお話も大切にしている。年度内に2回の消防署と連携(訓練の事前通告を含む)を実施した。

(取組状況) 火災訓練では、出火元を訓練毎に変更する等工夫し、また2019年度は避難時の時間も複数回にわたり計測するなど、より実践を想定した訓練が出来てきている。園児達も単に訓練ではなく、実際に「自分の命を守る」という意識が着実に芽生えてきている。地震後の津波を想定した訓練も、年に2回近くの小学校への避難訓練が実施できた。早く非難しつつ、横断歩道を渡る際など園児の完全確保を職員間で何度も確認し、緊張感を持って訓練に従事した。

防犯訓練では、不審者対応・対策を教職員間で共有するようにし、園内の複数箇所に設置されている防犯カメラを職員が随時確認する等、部外者の園内への出入りを必ず確認するよう心掛けている。

評価項目⑥ 保護者への対応と幼稚園からの連絡

(達成) 毎月のお知らせ等(園ホームページ、園だより、一斉メール)で園生活に必要な事柄を保護者に事前にお知らせし、日々の活動や園行事を円滑に進めることが出来ている。2019年度から保護者アプリ「コドモン」の運用を開始し、幼稚園のICT化を推進している。

(取組状況) 持ち物や行事の日時や集合場所といった基本のお知らせに加えて、行事毎にアンケートを実施して保護者からの意見を受け止め、常に当該行事の分析と今後の課題を協議する機会を設けている。特に、保護者からの視点を意識しつつ園で出来る改善点を常に熟慮するよう努めている。

保護者アプリ「コドモン」では、登降園の際の各園児の時刻、毎月の保育料等、給食の献立表や各グループスケジュールなど、多くの情報を保護者のスマートフォンで確認出来るようにしている。お休み、遅刻、預かり保育の申込連絡も、保護者アプリからいつでも(24時間体制)幼稚園に連絡できるようにしており、教職員にとっても連絡がデータで残るので業務改善に繋がっている。